

# 将来像

関内・関外地区の緑の軸線として、花や緑による魅力向上、公民連携による賑わい創出により、誰もが気持ちよく安心して憩える公園を目指します

●方針1  
花や緑による「緑の軸線」の更なる魅力向上を目指します

施策①都心部の貴重な緑の空間として、街の美観向上と安全かつ明るく快適な歩行者空間を確保  
②花や緑による景観創出等により、緑の軸線の魅力が実感できる機会を更に創出

●方針2  
公民連携による賑わいの創出など、公園の魅力向上を目指します

施策①関内駅周辺地区のまちづくり計画と連動し、回遊性を向上  
②周辺の事業者等との連携により、公園利用者へのサービス向上につながる横浜らしい新たな魅力や賑わいを創出  
③大通り公園から関内・関外エリアの活気と賑わいを創出し、持続可能な公園経営を推進

●方針3  
誰もが気持ちよく安心して憩える公園を目指します

施策①公園利用者のマナー向上や多言語化等の推進  
②地域の歴史を大切に、市民の日常利用のため、バリアフリー化や防災の視点など、誰もが使いやすく、きれいで安心・安全な公園づくりの推進  
③公園愛護会の活性化をはじめ、地域との協働による公園活用等の推進

## ゾーニング図（イメージ）

・多様な主体による公園愛護会の活性化と花壇の充実  
・花壇や植栽等のリニューアル

・芝生広場等の整備  
・飲食機能の導入  
・イベントや賑わいの創出（2区・3区）  
※水の広場の流れについては、施設の見直しも含め検討

・駅からの玄関口として花や緑による景観を整備  
・魅力的な見通し空間の創出



1～3区全域等に係る内容  
・高木の一部整理により、明るく、快適で、安心安全な空間の確保  
・周辺公園との連携を推進

※ゾーニング図で示した内容のほか、将来像、方針、施策に基づく取組の検討や実施をしていきます。

花木により駅からの導線を演出するエリア

イベントや賑わいにあふれるエリア

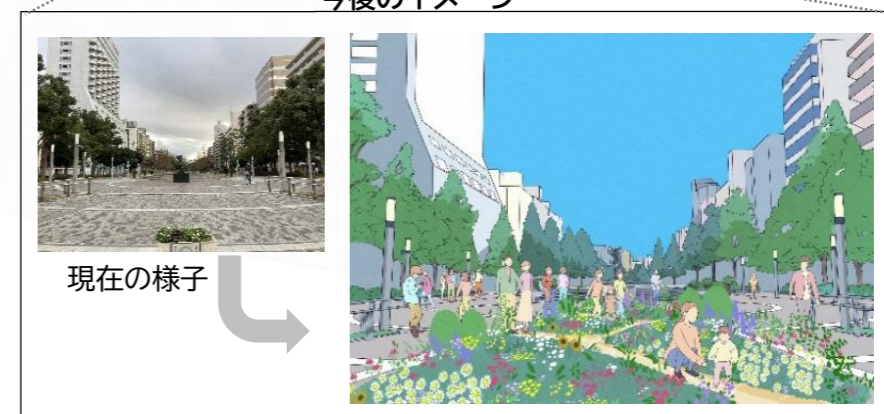
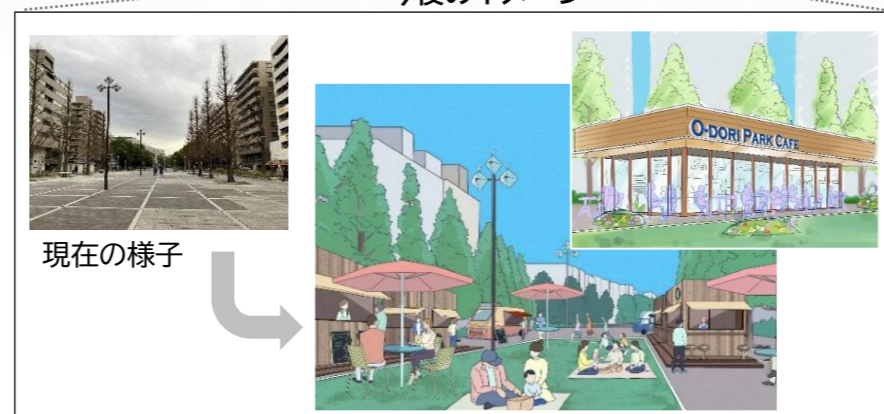
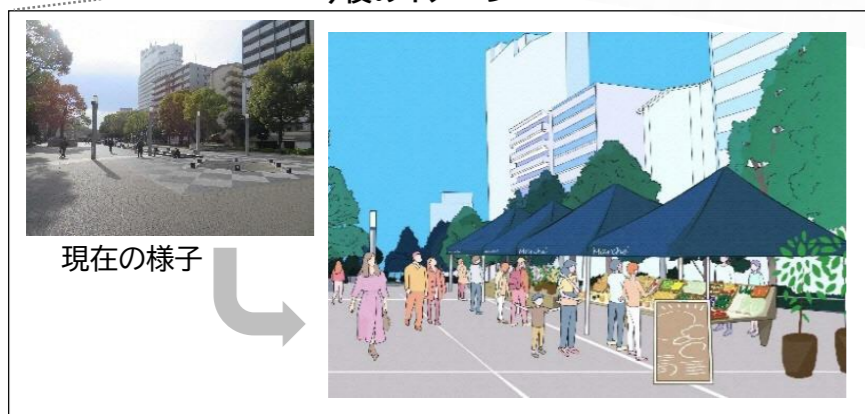
ウェルカムガーデンエリア

飲食を楽しめ、ゆったりとくつろげるエリア

今後のイメージ

今後のイメージ

今後のイメージ



# 大通り公園（1区～3区）パークマネジメントプラン【概要版】

## パークマネジメントプランとは…

### パークマネジメントプランの目的

公園の魅力アップにつながる利活用を進めるにあたって、公園の立地特性、基本的性格、利用状況、課題等を踏まえ、公園の目指すべき将来像を地域の方々、利用者や担い手（関係団体、民間事業者等）となる皆様と共有するために策定するものです。

### 基本となる考え方

公園の目指すべき将来像を地域の方々、利用者や担い手（関係団体、民間事業者等）の皆様と共有しながらプランを作成します。

### 策定の方法と今後の予定

プラン策定後は、プランに基づき⑤サウンディングや事業者公募を行う予定です。また、必要に応じて、イベント等による社会実験を通じて、具体的な課題を共有しながら事業化を推進します。

※まずは、1区～3区について検討を進めてまいります。今後、大通り公園全体のパークマネジメントプランについても検討を進めていく予定です。

- ① 「現状と課題」について
- ② 「将来像・方針・施策」(案)について
- ③ 今回の条件に合わせて時点修正
- ④ 大通り公園(1区～3区)パークマネジメントプランの策定
- ⑤ サウンディング・公募実施(予定)

### プランの推進

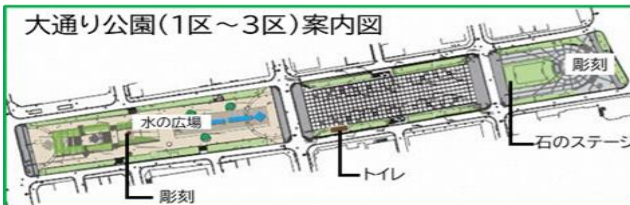
パークマネジメントプランに基づいた施策の実施、成果の評価、評価に基づくプランや施策等の改善といったPDCAサイクルによる公園経営を進めます。



## 関内駅周辺地区周辺の動向

大規模な土地利用転換として、関東学院大学の開校や、横浜文化体育館（メインアリーナ施設）の供用開始等が進んでいます。将来的に大学生、横浜文化体育館の利用者、旧市庁舎街区への来街者、就業者等、多様な利用が見込まれます。

時期	関内駅周辺地区の主な開発等の予定
2023年度	関東学院大学 新キャンパス開設(教育文化センター跡地) (低層部の市民開放エリアは2022年内に順次オープン)
2024年度	メインアリーナ施設 供用開始(横浜文化体育館再整備事業)
2025年度	旧市庁舎街区 竣工予定(2025年下期)



## パークマネジメントプラン策定の背景

大通り公園（1区～3区）が位置している関内駅周辺地区は、開港以来、横浜の発展をけん引してきた関内・関外地区の中心です。横浜市では、令和2年6月の市庁舎移転を契機として「国際的な産学連携」「観光・集客」をテーマとした機能が集積し、賑わいにあふれる地区となることを目指し、この地区のまちづくり方針として、「関内駅周辺地区エリアコンセプトプラン」を策定しています。大通り公園においては、この方針を踏まえ、公園の将来像を示したパークマネジメントプランの策定を進めることで、公園の抱える課題の解決を含めた公園の魅力アップを目指していくこととしています。

## 関内駅周辺地区



●大通り公園（1区～3区）パークマネジメントプラン【全体版】  
横浜市ホームページに掲載しています。

●関内駅周辺地区エリアコンセプトプラン

大通り公園 PMP

関内 エリアコンセプトプラン

■パークマネジメントプラン本編は、下記の市役所ホームページにてご覧いただけます。  
[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/koen/oodoori\\_pmp.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/koen/oodoori_pmp.html)

## 大通り公園の現状と課題について

### 大通り公園及び周辺地区の沿革

大通り公園は、運河の役目を終えた吉田川・新吉田川を埋め立て、つくられた公園で、1978年に横浜の六大事業の1つである都心部強化事業における「緑の軸線構想」の一環として整備されました。1999年からの再整備を経て現在の姿になりました。

### 大通り公園の立地特性

大通り公園が位置する、関内・関外地区は、横浜の中心として港と共に発展を遂げてきており、港町ならではの歴史や文化が息づく、都心臨海部における大変重要な地区です。

### 大通り公園の基本的性格

・市街地の中の貴重な緑の軸線として、成長した高木の並木及び芝生、バラ等の花やみどりは、市街地の中で自然を感じることが出来る貴重な要素であり、都心部の魅力を高める「緑の軸線」の中核を担っています。

・1区の石のステージ、2区の石の広場、3区の水の広場では、これまでイベントで利用され、賑わいの創出に寄与してきました。現在は、イベント開催による新たな賑わい創出の可能性を検証しています。2017年からまちづくりの取組として、まちの賑わい創出を目的に、主に1区や2区で社会実験を実施しています。

### 課題

**(1) 公園利用者のマナー**  
ゴミのポイ捨て、野鳥へのエサやり、園内の自転車走行、騒音など、一部の公園利用者のマナーへの対応。

**(2) 公園の安全安心や美化**  
安全安心に係る対応、バリアフリーへの対応、園内の清潔感、植栽による美観創出。

**(3) 高木の巨木化・老朽化**  
舗装の根上がりによる歩きづらさ。道路沿いにクスノキ等の巨木が多く、防犯・安全面への懸念。また、高木の老朽化による事故の発生防止。

**(4) 公園愛護会の更なる活性化**  
今後の公園愛護会の担い手不足。

**(5) まちづくり方針と連動**  
「関内駅周辺地区エリアコンセプトプラン」を踏まえた、賑わいや滞在する空間の創出。

**(6) 公民連携（公共、民間、地域）による公園の魅力アップ**  
「公園における公民連携に関する基本方針」に基づいた、公園の魅力アップのための公民連携手法の活用。